

導尿手順 ～バルーンカテーテル編～



必要物品

<input type="checkbox"/> 導尿用カテーテル・・・1本	
種類：ファイコン オールシリコンバルーンカテーテル	
サイズ：	フレンチ Fr
固定水：	ml
<input type="checkbox"/> シリンジ	ml用
<input type="checkbox"/> 蒸留水（又は水道水）	ml
■その他物品（個々の必要に応じて使用）	
<input type="checkbox"/> 潤滑ゼリー	
<input type="checkbox"/> クリーンコットン（清浄綿）又はおしりふき など	
<input type="checkbox"/> 尿を受けるオムツ又は容器	
<input type="checkbox"/> オムツ交換用の新しいオムツ	

バルーン部分を膀胱内にしっかり入れるためです。挿入する長さが不十分だと、バルーンが留置できずにカテーテルがぬけたり、尿道の途中でバルーンが膨らんで尿道が傷つく可能性があります。

- ⑦カテーテルの長さが充分挿入されている状態で、固定水を規定量注入します。
※スムーズに注入できるかを確認してください。注入中に抵抗を感じたら、尿道途中で膨らんでいる可能性があります。無理せず一度カテーテルを抜いてください。
- ⑧バルーンを膨らませた後、カテーテルが動かないか確認し、カテーテルを持ってゆっくりと引き抜きます。軽い引っかかりを感じたらバルーンが膀胱出口に留置された状態になります。
※このとき、カテーテルを強く引いたり、抵抗があってもさらに引くと尿道を損傷させてしまうので無理には引かないようにします。
- ⑨体の動きでバルーンが引っ張られないような位置でカテーテルを固定します。
- ⑩流出する尿の性状を観察します。

男の子の手順



- ①必要物品を準備します。
- ②オムツを交換します（便で汚れていた場合には、きれいに拭き取っておきます）。
- ③石鹸を使用して手洗いをしっかりと行ないます。
- ④導尿用カテーテルの袋を開き、固定水を注入してバルーンが膨らみ破損がないこと、回収できることを確認します。カテーテルの先端にゼリーをつけておきます。
- ⑤左手（利き手とは反対の手）でペニスを持ち、右手（利き手）でクリーンコットンを持ち、包皮を引っ張って亀頭部を出して拭きます。
- ⑥先端にゼリーのついたカテーテルを右手（利き手）に鉛筆を持つようにもち、尿道口へ挿入し、尿が出てくるのを確認します。
 cm。尿が出始めたら、さらにカテーテルを cmまで挿入します。
 このとき、カテーテルの末端はオムツの上か、尿を受ける容器に収めておきます。

※これはバルーンが尿道で膨らまないように、

女の子の手順



- ①必要物品を準備します。
- ②オムツを交換します（便で汚れていた場合には、きれいに拭き取っておきます）。
- ③石鹸を使用して手洗いをしっかりと行ないます。
- ④導尿用カテーテルの袋を開き、固定水を注入してバルーンが膨らみ破損がないこと、回収できることを確認します。カテーテルの先端にゼリーをつけておきます。
- ⑤左手（利き手とは反対の手）で大陰唇を開き、尿道口を確認します。右手（利き手）でクリーンコットンを持ち、外陰部を図のように拭きます。処女膜で尿道口がわかりにくいことがあ



ります。練習を重ねれば、判別ができるようになります。

- ⑥先端にゼリーのついたカテーテルを右手（利き手）に鉛筆を持つようにもち、尿道口へ挿入し、尿が出てくるのを確認します。

□ cm。尿が出始めたら、さらにカテーテルを □ cm まで挿入します。このとき、カテーテルの末端はオムツの上か、尿を受ける容器に収めておきます。

※これはバルーンが尿道で膨らまないように、バルーン部分を膀胱内にしっかり入れるためです。挿入する長さが不十分だと、バルーンが留置できずにカテーテルがぬけたり、尿道の途中でバルーンが膨らんで尿道が傷つく可能性があります。

※カテーテルを挿入しても尿が出ない場合には、1～2回カテーテルを前後させてみます。それでも尿が出ない場合には、カテーテルが腔に入っている可能性もあります。腔に入ってしまった場合には、もう一度清潔にしたカテーテルを使用して、導尿しなおしましょう。

- ⑦カテーテルが挿入されている状態で、固定水を規定量注入します。

※スムーズに注入できるかを確認してください。注入中に抵抗を感じたら、尿道途中で膨らんでいる可能性があります。無理せず一度固定水を全て回収してからカテーテルを抜いてください。

- ⑧バルーンを膨らませた後、カテーテルが動かし確認し、カテーテルを持ってゆっくりと引き抜きます。軽い引っかかりを感じたらバルーンが膀胱出口に留置された状態になります。

※このとき、カテーテルを強く引いたり、抵抗があってもさらに引くと尿道を損傷させてしまうので無理には引かないようにします。

- ⑨体の動きでバルーンが引っ張られないような位置でカテーテルを固定します。

- ⑩流出する尿の性状を観察します。

ポイント

- 留置中カテーテルが抜けないように固定を確実にしましょう。
- カテーテルとコネクタの境目の径の変わる部分は屈曲しやすいので注意しましょう。
- 留置中カテーテル内に空気があると、尿の流出が滞る場合があります。尿量が少なくカテーテル内に空気がある場合は、空気を抜いてみてください。

バルーンカテーテル抜去の手順

- ①石鹸を使用して、手洗いをしっかりと行ないます。
- ②固定水が規定量回収できたことを確認して、ゆっくりとカテーテルを引き抜きます。
- ③尿道口を清拭します。



導尿後のカテーテルの洗浄について

※「通常編」と同様です。P.12をご参照ください。

使用後のカテーテルの廃棄^{はいき}について

※「通常編」と同様です。P.12をご参照ください。

こんな時どうする!?

? 固定水が回収できません。

固定水が抜けたりバルーンが破損した場合、回収できないことが考えられます。ゆっくり引いて抵抗なく抜けるようなら抜いてください。引っかかりを感じる時は、引かずに病院に連絡してください。

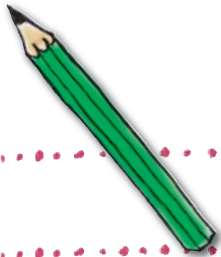
? カテーテルが引っかかってぬけません。

そのまま留置固定した状態で、病院に連絡してください。

※ P.12 もご参照ください。

いずれの場合も、ご相談の際には導尿バルーンカテーテルを間歇で留置していることをお伝えください。

memo



A series of horizontal dotted lines for writing, spanning the width of the page. The lines are evenly spaced and extend from the left margin to the right margin.

